

若者の声を振興計画へ

11月23日に「会津坂下町U(アンダー)30まちづくり集会」を開催しました。これは、第六次振興計画策定に向け幅広い意見を取り入れるため、高校生から30歳以下の若者を対象とした集会です。集会には、会津農林高校や坂下高校の生徒をはじめ、20名の皆さんに参加いただき、若者目線で町の課題や将来像について話し合いました。人生における各世代にどんなことが欲しいかを話し合った「まちづくり人生ゲーム」では、次のような意見があげられました。



- 少年期…いくら汚しても怒られない部屋
- 青年期…若者が気軽に集まれる場所
- 壮年期…やってみたいを实践できるしくみ
- 老年期…家族や孫と一緒に過ごせること

また、今後のまちづくりのキャッチコピーを考える「キャッチコピーコンテスト」を行いました。人気を集めたものは次のとおりです。

- 「みんなが家族、笑顔があふれる坂下町」
- 「うんめえ～、すんげえ～、ばんげえ～」



第五次 振興計画検証報告

10月22日に第4回委員会を開催しました。今回は、これまで実施してきた「第五次振興計画」の検証内容について、報告書としてまとめる作業を行いました。検証報告書は、町ホームページからご覧いただくことができます。

また、新たな振興計画の策定に向け、基本構想のあり方や体系などについて議論しました。

委員からの主な意見は次のとおりです。

- 理念・将来像・目標等を整理し、真に大事な事項を、誰もがわかりやすいように表現するべき。
- 町民がまちづくりに参加しなければならないことを明示し、行政がやること・町民がやることを明確にするべき。

これからの地域づくりとは？



11月22日に第5回委員会を開催しました。今回の委員会では「今後の地域づくりについて」をテーマに、地域の範囲のあり方、計画や事業のあり方、コミセン方式のあり方の3つの論点についてワークショップを実施しました。各論点において出た主な意見は次のとおりです。

◆地域の範囲のあり方について

- ・現状の7地区については、歴史もあり変えるのは難しい。広い範囲での体制とした場合、事業や活動に対する関心が薄れてしまうのではないかと危惧される。
- ・最終的には一本化が望ましいが、地区の再編は長期的に考えなくてはならない問題であり、小さなところから始めていくことが必要。
- ・課題や対象者によって活動の範囲を変えるべきであり、地区としての活動だけでなく、行政区との連携事業や地区間の共同事業などを進めていくべきである。

◆事業や計画のあり方について

- ・行政区単位等の小規模で顔の見える範囲での交流の場が必要だと考える。
- ・経費をかけずにできる活動もあり、それぞれの地区の良さを再発見できるような事業の検討が必要。
- ・他地区の事業に参加しやすくしたり、全地区合同の事業を実施したりすべき。
- ・事業運営側で人集めに苦労している状況もある。ニーズの少ない事業は廃止し、スマート化が必要。
- ・住民ニーズの調査を実施し、必要とされる事業を把握し、各地区においても情報共有を図っていくべき。

◆コミセン方式のあり方について

- ・コミセンの活動分野は広範囲に及ぶため、行政においても、縦割りではなく、横のつながりを持って地域づくり活動を支援する体制が必要。
- ・コミセン活動の担い手育成が課題である。活動の中でどう人材を育成していくか検討が必要である。
- ・役場の出張所的な機能を付与して、そこに行けば課題を解決できるような組織が望ましい。
- ・地域づくり協議会長が定期的に行政と意見交換できる場を設けてはどうか。また、コミセンに地域コーディネーターを配置し、他地区とのパイプ役を合わせて担ってもらう。事業運営については、有償ボランティアの活用も検討してはどうか。